

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072300561		
法人名	有限会社 野いちご		
事業所名	グループホーム 野いちご式番館	ユニット名	A棟
所在地	福岡県 八女市 新庄 567-1		
自己評価作成日	平成30年12月14日	評価結果市町村受理日	平成31年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	平成31年2月20日	評価確定日	平成31年3月9日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方々に恵まれ、地域に、家族に、そして利用者、家族に支えられたグループホームだと思えます。地域に貢献し、利用者、家族が安心していただけるようなグループホームを目指しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホーム野いちご式番館”の理念に、「ご入居者らしい生活を送ることができるよう、自分らしく自由な暮らしで、1日1日を大切に、『今』を大切に暮らすを支援します」とあり、日本ならではの慣わし(風習)や地域行事を楽しまれている。お彼岸の時は「ぼたもち」を作り、こどもの日は菖蒲湯を楽しまれ、地域の「よど祭り」ではホーム長が焼きそば作りを手伝い、入居者と一緒に地域の方々ただご汁等を楽しまれている。「母の日」「父の日」のプレゼント等も入居者個々に相談し、「どこかに行きたい」等の要望に応じて『べんがら村』での食事を楽しまれた。ホーム長は職員個々の良さを認め、職員のアイデアを尊重しており、入居者の自立支援に向けた話し合いも密に行われている。入居者の「有する能力」を丁寧に引き出し、「待つケア」が当たり前に行われている。入居後、次第に若くなられる方もおられ、職員も嬉しく思っている。今後も日々の素敵な取り組みを動画に残し、認知症ケア等の共有に活かしていく予定である。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、理念を唱和しており、共通していると思う。そして、実践に繋げるようにしている。毎年スローガンを定めている。	理念の⑥に「地域の特性を活かし、地域と密着した認知症対応型共同生活介護サービスを目指します」という内容があり、開設以来、地域の一員として過ごしてこられた。「自分らしく自由な」生活が送れるように、入居者個々の生活ペースを大切にすると共に、季節行事も楽しまれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、地域の行事にも参加している。ホームの行事にも参加してもらっている。	町内会の旅行や道路愛護に職員が参加している。ホーム長が地域の「よかとか会」の活動を継続しており、「八幡ふれあい広場」で野いちご新聞を掲示したり、小学生の踊り等を楽しまれている。ホームの敬老会に地域の方や家族も参加して下さり、楽しいひと時を過ごされている。	小学生が町探検でホームに来て下さっている。今後は保育園児との交流を再開すると共に、日々の生活やケアを動画撮影したものを運営推進会議等で投影するなど、認知症と認知症ケアの啓発活動を行う予定である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	敬老会の時に、参加者(地域の方々も含む)を対象とした身体拘束についての勉強会を行った。そして、できるだけ地域へ利用者と一緒に出向き、理解を深めるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見が出た時は、取り入れるようにしている。毎回、前回の議事録を参加者へ提示している。	「29年度の事業報告」と「30年度の事業計画」を報告し、災害対策の検討も行われている。「身体拘束等の適正化のための指針」を作成し、毎回の会議で検討しており、地域包括の方から「身体拘束」の講義もして頂いた。敬老会も一緒に行い、入居者の方と楽しく過ごす機会も作られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	特に積極的には行ってないが、必要に応じ、相談や報告を行い、良い協力関係が築けていると思います。	八女市役所に空き情報を報告したり、不明点を相談した時も親身に対応して下さる。生活保護の更新申請時はケアプランを持参し、状況報告をしている。運営推進会議で「身体拘束」等の講義もお願いしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年の敬老会の時に『身体拘束について』ということで勉強会を行った。そのうえで、改めて行わないということを徹底していきたい。	「言葉遣い」も虐待に繋がる事の再確認が行われている。家族には「身体拘束を行わない事」や日々の見守り等に努める事を伝え、予測されるリスクも説明している。病院で身体拘束を受けていた方も、ホームでは職員の見守りの中で自由に過ごされており、表情が穏やかにいられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃のケアの中でスタッフには伝えている。そして特に、言葉遣いや態度には十分に注意していくようにしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	最近では、行っていなかったが、今後、勉強会などを開催したいと思っています。	入居時に制度の説明をしている。成年後見制度を利用している方もおられ、後見人との情報交換をしている。ホーム長や社長が制度の必要性の検討を行い、必要に応じて福祉事務所を紹介している。県のGH部会で権利擁護研修に職員が参加し、制度の勉強を続けている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な説明を行っていると思います。要望や疑問などがあればその都度尋ねてくださいと伝えています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などにできるだけ、そのような場をも設けるようにしている。そして、できるだけ反映できるようにしている。	理念の⑦に「いつでも、ご家族が、気軽に立ち寄っていただける共同生活住居を目指します」とあり、職員は“笑顔で挨拶”を意識している。家族に近況報告を行い、要望等を尋ねている。毎月の新聞を作成しており、写真も掲載し、プランの実践状況も含めた近況報告を家族に渡している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や朝のミーティング時など、できるだけ意見や提案を出しやすい環境は作るようにしている。	社長、ホーム長のお人柄もあり、意見を伝えやすい環境になっている。委員会活動も継続し、職員主体で行事計画書を提出し、実施記録もできている。全体会議やユニット会議、申し送り後のミーティングで意見交換しており、職員の意見は否定せず、まずは試してみるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できる限り努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	十分に配慮している。公休の希望は優先し、配慮している。	採用時は介護経験を問わず、真に持っている人間味(人への優しさ)を大切に採用している。職員個々の能力やタイプを見定め、職員の助け合いも行われている。“出会った以上は、この縁を繋いでいく”と言う思いで、介護が初めての職員にもマニュアル等を渡し、日々の指導を続けている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日頃のケアの中で、その人の身になって考えるようにスタッフに伝えている。	社長は現場で働く職員を大切にすることを重視している。「根拠あるケア」ができるように職員間の情報交換が密に行われている。理念の唱和も継続し、迷った時は理念を振り返るようにしている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの力量に応じた研修などを提案し、受けてもらうようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の場があるところに、できるだけ参加してもらうように促している。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に訪問し、面接を行う際に聞くようにしている。そして、入居後も注意深く観察している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談や事前訪問時、そして入居時にそれぞれ確認して行くようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後も必要と思われる場合は、他のサービスなどの利用も検討している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できるだけ一方的な介護とならないように、傾聴の姿勢をもって介護に携わるように伝えている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、近況報告を郵送し、面会時などにご家族などから色々な話を聞き、共に本人を支えられるように努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できるだけ、これまでのなじみの関係が継続できるようにし、入居後にも新たななじみの関係が築けるようにも努めている。	職員と自宅や納骨堂に行かれたり、家族とお墓参りに行かれている。“よど祭り”や“八幡土曜余市”で馴染みの方と再会されたり、ホームに友達に来て下さっている。家族に年賀状を出しており、ご自分で書かれる方もおられ、職員がご本人の想いを察して代筆する方もおられる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できる範囲で手伝いなどを促し、役割が持てるような支援を行うとともに、孤立しないように、他の利用者とかかわりが持てるように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もできるだけ、断ち切れないようには思っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを聞き、一人ひとりに合わせた対応を検討していている。	入居者個々の“思い”を把握し、職員間で共有している。「食事に行きたい」「自宅に帰りたい」と言う願いがあり、家族の協力で叶える事ができている。言葉にならない思いも把握するように努めている。誕生日のプレゼントも個別で、時間を気にする方には居室に時計をプレゼントさせて頂いた。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族などから話を聞くようにし、新しい情報があれば、共有するようにし、ケアにかせるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活パターンの中で、現在の状況の把握に努めて、その人に合ったケアを行い、これまでの生活が継続できようとしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	何かあるときは、スタッフ間で話し合ったり、ご家族から意見をいただいたりしている。	入居前に自宅訪問している。自立支援を大切にされており、ご本人のできる事を引き出している。下ごしらえ(手伝い)や食器洗い等の役割も担って頂き、主治医や看護師からのアドバイスも頂き、リハビリや体操も盛り込まれている。体調変化に応じて、適宜検討し、見直しを行っている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきなどあるときは、朝のミーティング時やその都度にスタッフ間で共有し、計画、実践と生かせるようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要であれば検討し、様々な支援方法に取り組むようにしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じ、地域資源との連携を検討していくようにしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	極力今までのかかりつけ医を継続できるようにし、変更した場合は信頼関係の構築のため、主治医との懸け橋になれるようにしている。	月2回往診があり、歯科医の往診を受けている方もおられる。必要に応じて訪問看護師が毎日来て下さり、系列ホームの看護師も毎週来て下さる。職員が通院介助を行い、家族と受診結果の共有もできている。職員の観察力も高くなり、早期対応に繋げている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきなどあるときは、必ず報告するようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後、担当ソーシャルワーカーへ定期的な連絡を行い、状況確認と早期退院へ向けた情報交換を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、必要時に説明を行い、事業所のできる事を伝えたくて、理解いただき、チームで取り組んでいくようにしている。	入居時に『看取り同意書』で説明し、意向を確認している。「最期はここで」と希望される方も多く、職員間の情報共有をしている。24時間体制で医師の往診(点滴や酸素療法等)が受けられ、看護師にも相談できる。終末期にはご本人と家族の思いを受け止め、誠心誠意の終末期ケアを続けている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の訓練時に、応急手当などの訓練を行ったりしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練にて、消防署職員より地震や水害といった火災以外の対処法などを講和いただいた。それをもとに周知徹底を図っている。	年2回、夜間想定訓練が行われ、地域の方や消防署員と訓練している。周囲の土地より少し高めに建てられ、雨戸もあり、自然災害の対策も検討している。系列施設との協力体制もあり、通報装置に近所の方を2名登録している。災害に備え、水や保存食、発電機等を準備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の身になって、物事を考えるということ、言葉使いには十分な注意をはらってほしいと伝えています。	理念の④に「ご入居者のプライバシーを守りながら…」とあり、一人一人のペースに応じた支援が行われている。毎月10日、20日、30日は『おもてなしの日』とし、職員は更なる「言葉遣い」の意識を続けている。言葉遣い等に関する委員会もあり、毎月振り返りを行っている。	社長やホーム長は、言葉の中に感謝の気持ちを込める事を伝えている。「言葉遣いに関する委員会」等を中心に、今後も自らの言動を振り返る機会を作ると共に、その場の空気を読み取る意識も強化していく予定である。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り、働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り、一人一人のペースに合った、その人の希望に沿った支援を心がけているが、ホームの都合を優先するところも、まだまだ見られる。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	十分注意し支援をしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる限り行っている。	近所の方から野菜の差し入れがあり、入居者と献立を考えている。買物時は入居者もカートを押して下さり、ホームではじゃがいも等の皮むきや食器洗い、干し柿、らっきょう、梅干し、盆団子作り等も一緒に楽しんでいる。ホーム内と外食時の摂食嚥下の状況が異なり、食事形態にも配慮している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	できる限り行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限り、トイレでの排せつを念頭に、支援を行っていくようにしている。	排泄が自立している方も半分以上おられる。布パンツで過ごして頂けるよう、パッドの必要性を含めて職員間で話し合いを続けている。入居者個々の排泄感覚を把握し、記録にも残し、おむつからリハビリパンツ、布パンツに変更できた方もおられる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の状況を、全スタッフが把握し、できるだけ下剤などを使用せず、食品などで排便を促すようにしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後から夕方にかけての時間帯の中で、利用者の状況に応じ実施している。まだ、施設の都合に合わせているところが多いように思います。	お風呂好きな方が多く、入居者の希望(湯温や入浴時間、シャワー浴と足浴)を大切にされている。入浴時は会話を楽しみ、菖蒲湯や柚子湯も生まれ、必要時は同性介助も行われている。入浴拒否が見られる時は原因分析し、「脱力ケア」も大切に、無理じいしないようにしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも、つかれている感じがみられる時は、居室(ベッド等)で休息していただくこともある。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更などがあった場合は、副作用などを把握し、注意深く観察するようにしている。		



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる限りできる様に支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	まだ、個別での外出支援は少ない。家族の協力のもとでの外出は2、3名程おられる。	ホームの前で日光浴をしたり、周辺を散歩している。ホームの“野いちごファーム”でトマトやオクラ作りを楽しまれたり、花見(桜・大藤・つつじ・秋桜)や柳川の川下り、買物に出かけている。初詣は熊野神社にお連れし、手を合わせている。家族と野球観戦に行かれたり、自宅やお墓参りに行かれる方もおられる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が金銭を管理している状況にはないが、本人の希望で買い物をする時は、立替金から立替え、買い物することもある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある方は、外部との連絡はできている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り、自然な雰囲気意識している。そして室温、湿度は特に注意している。	リビングの天井は高く、窓から田畑を眺める事ができる。リビングと台所が隣接し、入居者も一緒に洗い物等をされている。リビングのソファで入居者同士が団欒したり、入居者も一緒に掃除を行っている。季節の飾りも行い、外部評価で訪問した時は、1つのユニットにお雛様が飾られていた。敬老会の時は両ユニットの仕切りを開け、広く使われている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の生活スタイルに合わせ、一人になりたいようなときは、居室にて過ごされたり、無理に他の利用者と一緒にすることはない。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と話し合い、利用者の状況に応じて徐々に増やしていくこともある。	木の温もりを感じる事ができる和室と洋室が準備されている。タンスやテレビ等を持ち込まれ、家族の写真等も飾られている。家族と野球観戦に行かれる方もおられ、チケットや幟、選手のサイン等を置かれている。遺影や仏壇も置かれており、職員が毎朝お水を供えている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる事はやっていただき、役割ややりがいをもって生活できるように工夫をしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				